

J C の資格化に向けた課題の整理

第 1 1 回作業部会における構成員からの主な意見は以下のとおり。

- 資格取得者の人物像の整理について、様々な論点があるため令和 5 年度末までにまとめるのは困難であり、引き続き作業部会において議論したい。
- 人物像は雇用や障害者就労支援に関して専門性のある方として広く設定するというところを取り入れていただけると良いのではないかと。企業の実態に
応じて、どこを調整すれば一緒に働けるのかというところを橋渡ししていく視点を持って資格化を検討していくと良いのではないかと。
- 上級 J C と資格化の議論がまだ整理ができていないというのが率直な感想。上級 J C の受講要件のところ、養成研修を受けても、実際に関わって
いた仕事の中でできる幅と、今現在 J C として動いているところ、もう少し深めた上での設定のほうが質の担保につながるのではないかと。いずれにしても、J C という名前とするかは置いておいて、J C を踏襲する流れで労働側の国家資格として重要。これに向けてもっと検討する
会議を継続的にお願いしたい。
- 人物像を議論するにあたり、養成研修を受けた方がどういう場で活躍をされているのかを調べる必要があるのではないかと。助成金以外で J C のよう
な役割を果たしているのか。
- 雇用率が上がる中で経験のない企業がたくさんあり、J C がどのようにかかわっていただけるのか。中小企業を巻き込んだヒアリングの場があるとよい。
業界団体ができることを期待する中で、国も業界団体と一緒に作り上げていくことが望まれる。
- 制度設計に向けて、実際に現場で支援にあたっている人の声がどのくらい入るのか心配。現場の声を拾い上げる時間を国でとっていただいて、形づ
くってほしい。
- 養成研修を受ける人というのは、助成金を活用せずとも様々な場面で障害者の就労や障害者雇用に関わっている方たち。それが、障害者雇用の質の
向上に役に立っているというように、私たちは実感として持っている。それについての議論も、もう一回きちんと行う必要があるのではないかと。人
物像の整理について、このような作業部会の形で議論したい。
- 企業と障害のある人の両方をサポートして調整する者が必ず必要で、それこそが J C の理念であり、方法技術の柱である。障害者雇用の質と定着に
必要だということについても、もう一回議論した上で、人物像を確定していくことが必要。